

# 森林(もり)は友達! 作文コンクール

東京事務所

3月8日、都内のホテルにおいて「第22回森林(もり)は友達! 作文コンクール」の表彰式が、受賞者(30名のうち28名出席)と保護者の方々等を含わせ、88名が参加して行われました。

この作文コンクールは、関東森林管理局管内のうち茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県及び静岡県に所在する森林管理署、森林管理事務所及び高尾森林ふれあい推進センターが行った森林教室や体験林業等に参加した小学4〜6年生を対象に、体験を通じて感じたこと、思ったこと、学んだことを自ら作文にすることによって、森林・林業に対する理解や関心をより一層深めてもらうことを目的に、「森林作文コンクール実行委員会」(一般社団法人東京林業土木協会と関東森林管理局東京事務所で構成)が毎年度行っているものです。

平成9年から開催されているこの作文コンクールは今年度で22回

目を迎え、これまでの総参加者数は約25千人にも達しています。今回は、21団体(小学校)から過去最高の1,920名の参加がありました。最優秀賞の林野庁長官賞には、「森林と水と人間」と題して、「森林と水と人間はつながっています」という自分自身の考えを明らかにした上で、そのつながりがくずれることを心配するとともに、一人ひとりの努



受賞した高見恵花さん



力がこの現状をくつがえすことができることにポイントを押さえて的確に表現した、横浜市立谷本小学校6年生の高見恵花さんが受賞しました。その他に「森林とふれあう感動」「間伐体験や炭焼き体験での発見」「地球温暖化防止や多様な生物のすみかとしての森林の大切さ」などをテーマとした次代を担う子供たちの作品が受賞しました。(優秀賞11作品、努力賞18作品)

また、寺川東京事務所長から「木について」と題してのミニ森林教室が行われ、「たくさん本を読んで、文書を書くことが大切」「これからも森林を愛して、木を



身近に、たくさん使ってください」との話がありました。この作文コンクールは、体験学習を通して、森林・林業の大切な役割について理解を深めてもらうため、これからも続けていくこととしていきます。

